

高等専門学校^{*}の運動系クラブ活動の問題点について

有馬 弘智^{*}

Problems with Extracurricular Sports Activities at a National College of Technology

Hirotooshi ARIMA

Abstract

高等専門学校での23年間にわたる運動系クラブ活動の指導の経験から、高等専門学校の運動系クラブ活動の現状を、活発な高等専門学校のクラブ活動と比較することで、クラブ活動の問題点を分析した。そして、その問題点を解決することで、高等専門学校の運動系クラブ活動がより活発になり、学生にとって有意義なものになるために、クラブ活動の体制作りを考察した。

Key Words: 練習量、目標、自主性

1. はじめに

高等専門学校のクラブ活動は、自主性を重んじたクラブ活動と言われることが多い。しかし現実には、高等学校のクラブ活動よりトップのレベルは低く、高等学校と比較して活発なクラブ活動かと考えると、決してそうは言えないクラブが多いのではないかと思う。そこで、本校に赴任して23年間、本校バスケットボール部の顧問をした経験から、高等専門学校の運動系クラブ活動の問題点を分析し考察した。

2. 練習量の不足

まず、高等学校と比較した時、一番の問題になるのは練習量の不足が考えられる。具体的には、下記の3つの事が考えられる。

- (1) 長期休業中の練習量の不足
- (2) 最上級生の練習量の不足
- (3) 体力・基礎技術のための練習量の不足

まず長期休業中の練習量の不足は、特に夏期休業中の練習量が考えられる。高等学校でも高等専門学

校でも7月頃に新チームとなる。高等学校では、今までに経験の少ない選手が多くの練習量を積み、チームとして大きく成長する期間が夏期休業である。しかし高等専門学校では、この期間に閉寮の理由などで、全員がそろって練習をすることができないのが現状である。合同練習をするためには合宿を行わなければならないが、長期に渡る合宿は、顧問の負担が多くなるため実施できないのが現状である。この時期に通学による練習は可能であるが、チーム全体のレベルアップは多くは期待できない。高等学校との格差はこの時期に現れるのではないかと思われる。また、冬季休業や春季休業中の練習量も同様で、高等学校に比べ練習量は少ないと言えるだろう。

次に最上級生の練習量については、就職試験や大学編入の試験が4月から始まるため、7月の大会前の時期に練習量が不足することが考えられる。早期に進路が決定する場合は大きな問題はないが、大会直前まで進路が決定しない場合は、練習量の不足は否定できない。チームの中心である最上級生の練習不足は、大会に影響があるように思う。このことは学校のシステム上仕方のないことだが、大会直前は

^{*}香川高等専門学校詫間キャンパス 一般教育科

短い時間でもかまわないので練習へ参加するが大切かと思う。

体力・基礎技術のための練習量の不足は、初めて高等専門学校に赴任したときに強く感じた。はじめに記述したように、高等専門学校のクラブ活動は自主性を重んじる傾向があり、学生主体のクラブ活動が多いように思う。そのため、体力をつける練習や、基礎技術を習得する練習は厳しさを伴うため、軽視されているように思う。必要性を感じても、学生主体のクラブ活動では、厳しい練習に取り組む体制を作り上げることは非常に難しいように思う。また高等専門学校は、授業時間が長いことや、実験などでクラブに参加できない状況があるため、部員全員がそろって体制が作りにくいことも練習量の不足に繋がっているように思う。

3. 目標の設定

高等専門学校の運動クラブで、そのクラブの目標を聞くと、多くは高等専門学校の地区大会で勝つことまたはその他の大会で勝つことと言うクラブがほとんどである。しかし、勝つことと言う目標はあまりにも抽象的すぎるため、具体的な練習の目標とは異なっている。

勝つこととは、チーム力を向上させることである。チームの良い部分、悪い部分をしっかり理解し、悪い部分をなくすための練習方法選択し、練習の目標を設定することが必要である。

それ以外に、個人に目標を設定することも必要である。個人の運動能力や技術には当然個人差があるため、個人にも良い部分、悪い部分をしっかり理解させることが大切である。個人でも悪い部分をなくし、個人の技術を向上させることが必要である。

学生主体のクラブ活動では、一般的な練習をする傾向があり、クラブの弱点を補うための練習が行われていないように思う。また、チームの戦術を重視するため、個人の体力や個人の基礎技術を軽視する傾向がある。チームの戦術は、個人が基礎技術を修得した上に存在するものであることを理解してほしい。

4. チーム作り

このような問題点を理解したうえで、キャプテンを中心とし、しっかり目標を持ったチーム作りが必要になると思う。

まずは、全員が練習に参加する体制作りが必要である。進路や実験などでやむを得ない理由は除いて、

常にクラブに参加する習慣をつけ、練習量を確保することが大切である。長期休業中の練習は、通学できる学生で行ったり、合宿を行ったりすることで練習量を確保することが必要であるように思う。

次に、練習の意図を理解して練習を行うことが必要である。その練習が自分たちのチームに何故必要か理解しなければ、練習はこなすだけのものとなり、効率も悪く、実際の試合ではそれを発揮できないまままで終わってしまうことが多い。練習の必要性を感じなければ、その練習は習得にまでは至らないと言うことだと思う。

個人についても同様のことが言え、練習の意図を理解して練習を行わなければ、その練習は習得にまでは至らないと思う。また個人の場合は、運動能力や基礎技術に個人差があるため、合同の練習だけでは個人差を埋めることはできない。個人が自分の良い部分、悪い部分をしっかり理解して、個人の目標を持って練習を行うことが必要である。

高等専門学校に赴任して、バスケットボール部の顧問として指導続けてきたが、赴任当初は練習量の増やし、体力や基礎技術の習得に力をそそいできた。学生も練習に参加し、それらを向上させていった。しかしこの時期の練習は、学生はやらされる練習で、自分たちで考える練習ではなかったように思う。大会では良い結果を残す時もあるが、チームが崩れると立て直しが利かず、力を発揮できずに終わるケースも多かった。何故崩れると立て直しが利かないケースが多かったか考えた結果は、やらされる練習では、自分たちで考えるバスケットボールができていなかったように思う。練習通りの試合内容では力を発揮できるが、リズムが崩れたとき、自分たちで考えて対応する力を持ち合わせていなかったように思う。この結論から、練習を行う場合はその練習の意図を説明し、チームおよび個人に目標を持たせることを意識した。その結果として、以前より学生は集中して練習を行うようになったように思う。練習中の声も出るようになり、練習の雰囲気も良くなったように思う。また個人に至っては、自分たちで自主的に朝の練習をしたり、練習後の時間も個人の目標のために利用するようになった。大会の成績も安定した結果を残すようになった。

経験から言えることは、しっかりしたチームを作るためには、学生だけのクラブ活動では無理があるように思う。ある程度指導者の助言が必要であると思うが、どの学校でも専門のコーチがいるかというそれは現状ではありえない。高等専門学校のクラ

ブ活動を活性化させるためには、顧問の負担も考えた場合、外部のコーチをお願いするなど手段も必要なのではないかと思う。

5. まとめ

クラブ活動は、顧問にとって大きな負担になることは間違いないと思う。しかしクラブ活動では、学校の授業では得られない経験ができ、人間形成には大きな影響を与えるように思う。高等専門学校のクラブ活動の活性化は、非常に大切な事だと思う。目標を持ち、しっかりした体制のクラブを作り、学生の自主性を引き出すことで、学生たちに良き経験を積ませてほしいと思う。クラブ活動の活性化を期待します。